

SSRI 22-14



金融マンの目で見、識る資料

平成22年度上期 (22年4月～22年9月)

名古屋地方裁判所 競売物件 [開札・落札]分析

開札・落札物件編

平成22年12月

不動産金融のシンクタンク
株式会社 三友システムアプレイザル

不動産金融研究所

SANYU SYSTEM RESEARCH INSTITUTE (SSRI)

TEL 03-5213-9750

FAX 03-5213-9760



この資料は当社のホームページに登載しています

このレポートは地方裁判所が公表した情報に基づいて作成しております。件数、期日、金額等については、現時点のデータと差異がある場合がございますのでご注意ください。また、注意して読んでいただきたい項目については、弊社小冊子「レポートの見方」もございますので、ご希望の方は上記までお申出下さい。

平成 22 年度上期（平成 22 年 4 月から平成 22 年 9 月まで）に、名古屋地方裁判所（本庁・一宮並びに岡崎支部扱い。豊橋支部扱いは除く）において、競売の開札日が到来した物件の分析を行った。開札期日到来物件数なので、地裁の発表する競売申立受理件数とは異なる。

————— 目次 —————

☆開札動向

I 開札件数	2
II 受理年別開札件数（暦年）	2
III 買受可能価額	3
★売却基準価額	3

☆落札動向

IV 落札件数・落札件数率	4
V 落札価額、落札価額倍率（対買受可能価額）	4
★落札価額上位状況（個人・法人）	5
VI 落札物件に対する応札者数	5
VII 公的地価変動率と落札価額倍率（対売却基準価額）	7
VIII 競売取り下げ状況	8
IX 地域別買受可能価額別落札状況	9

☆まとめ

○開札状況

- ・開札件数は前期から大幅に減少。
- ・住宅ローン破綻で急増した競売件数も一段落した模様。今後も中小企業金融円滑化法の影響により当面減少が続くと予想される。

○落札状況

- ・「落札件数率」は、上昇し(92.9%)4期振りに90%台に回復した。
- ・特に「マンション」は98.8%（250/253件、非落札は3件のみ）と統計のあるH12年以降では最高率となった。
- ・応札者数は前期から更に増加し過去最高数となった。開札件数は減少したが、競売人気は依然として衰えていない。特に「マンション」への集中が顕著。